

令和元年度 「生徒自身による『私たちのネット利用ルール』づくり」 活動推進実践報告書

1 学校の概要（5月1日現在）

(1) 学校名：埼玉県立児玉白楊高等学校

生徒数：412名 学級数：12クラス 教職員数：70名

(2) 学校概要

本校は、木村九蔵氏が明治17年に開校した競進社養蚕伝習所を前身とする男女共学の専門高等学校である。学校の歴史は古く、開校以降、競進社養蚕学校、競進社実業学校と改称を重ね、昭和12年には埼玉県児玉農学校となり、また、戦後の学区制変更により児玉農業高等学校となった。

昭和47年に県に移管されたのを機に工業課程を併設し埼玉県立児玉農工高等学校となり、平成7年には埼玉県立児玉白楊高等学校に改称し、現在に至っている。「なすことによって学ぶ」の校訓の下、生物資源科、環境デザイン科、機械科、電子機械科の4つの学科で、令和の新しい時代のものづくりを担う人材を育成している。

2 県立児玉白楊高等学校のネット利用ルールづくりについて

(1) ネットルールづくりへの取組（全校への周知の方法）

6月：県教育委員会から活動推進校の指定を受けた

8月：代表生徒3名が県教育委員会から「ルールづくりアンバサダー」として任命を受け、その後、合同ワークショップに参加し、ルールづくり研修を行った。

9月：「ネット利用ルールづくり」について告知した。

11月：ネット利用に関するアンケートを実施し、集計・分析した。

12月：アンバサダーによるルール案づくりを行い、「児玉白楊高等学校ネット利用ルール」を策定した。また、アンバサダーを中心に、ルールや活動内容を広めた。

1月：「埼玉県ネットトラブル防止サミット2020」に参加した。

(2) 児玉白楊高等学校「ネット利用ルール～できることから始めよう～」

ルール1「利用マナーを守ろう！」

① プロフィールに自分の個人情報を書かないようにしましょう。

→住所、電話番号、通っている学校名、IDは絶対に書いてはいけません。自分の写真も個人情報の一部です。注意が必要です。

② 友達の写真をアップするときは必ず許可を取り、無断でアップしないようにしましょう。

→友達の写真も友達の個人情報の一部です。

③ 他の人に悪口や嫌なことはアップしないようにしましょう。

→自分が嫌なことは他の人も嫌なはずです。

ルール2：犯罪に巻き込まれないようにしましょう！

① 怪しいサイトのURLには絶対アクセスしないようにしましょう。

→興味本位で怪しいサイトを開いてはいけません。フィッシングサイトや勧誘サイトかもしれません。

- ② ネットで知り合った人に気軽に個人情報をお教えしたり、実際に会ったりしないようにしましょう。また、SNSでフォローするときは、相手のプロフィールをよく確認しましょう。

→なりすましかもしれません。また、誘拐目的や出会い目的かもしれません。思わぬトラブルに巻き込まれるかもしれません。

- ③ 位置情報（GPS機能）は、必要以外はOFFにしておきましょう。

→写真や動画を取るとき、ONになっていると撮影位置を特定できてしまいます。自宅の位置や現在地まで特定できてしまいます。

ルール3：ネットやスマホの活用を考えよう！

- ① ネットは、自分のルールを決めておきましょう。

→情報収集源として使うのみにする、寝る30分前から使用禁止する（デジタル・デトックス）等、マイルールを決めましょう。

- ② 悩み事や相談事は、SNSではなく友達や親や先生などにきちんと話しましょう。

→「相談にのるよ」という言葉を信じて会いに行ってしまうと、思わぬ事件に巻き込まれる可能性もあります。

→SNSでの相談事はフォロワーしか読めない設定にし、不特定多数が読めないようにしましょう。知らない人のレスには反応しないか、反応前にプロフィールを確認することが大切です。

3 活動推進校独自の取組（広報活動）について

【1月】① 「ネット利用ルール」に関して、保護者宛通知を配布し、各家庭で「我が家のルール」づくりに協力してもらった。

② ホームページに「私たちのネット利用ルール」として掲載した。

③ 他校で参考にしてもらうため、本庄地区の中学校と高等学校及び秩父地区の高等学校に、本校のネット利用ルールを送付した。

【2月】本校の広報誌に掲載し、近隣住民に配布した。

【4月】入学許可候補者説明会で「児玉白楊高校『私たちのネット利用ルール』」を配布した。

4 活動の成果と課題

（1）成果

生徒会が中心となって取り組んだので、「生徒たちによる生徒のためのルール」という要素を色濃く出すことができた。学校からのいわゆる「ルールの押付け感」無く、生徒には受け入れやすいものとなった。

（2）課題

この事業は、ルールづくりアンバサダーに指定された各校が、それぞれの地域でネットトラブル防止に向けた取組の核となることを期待している。今後は、その期待に応えられるよう、他校、家庭、地域を啓発し、ネットトラブル防止推進体制を地域ぐるみで構築して行きたいと考えている。